

近年、日本企業の進出が進んでおり、世界遺産のハロン湾を始めとする魅力的な観光地を訪れる日本観光客も増加するなど、日本との友好関係が深まるベトナム。

現在、日本国内にはベトナム出身の留学生や技能実習生が急増し、福島県内のベトナム国籍の方は1,300名\*を超えています。

今回は、交流が深まる注目の国、ベトナムについて特集します。 ※『福島県の国際化の現状(平成28年度版)』



## Interview with Foreigners

# グイ・バン・ホックさん

### ベトナム社会主義共和国(ベトナム)

東南アジアのインドシナ半島東部に位置する社会主義共和制国家。南北に細長く、国境は、北は中国、西はラオス、南西はカンボジアと接する。首都は北部のハノイ。昔ながらの風景が残っているところもあり、ベトナム独特の雰囲気を感じ出している。南部のホーチミンはベトナム最大の商業都市で観光や仕事で訪れる人も多い。ミュージカルで有名な「ミス・サイゴン」のサイゴンはホーチミン市の旧名。

2015年12月より福島国際交流事業協同組合(FKK)に相談役・通訳として勤務。FKKが受け入れをしたベトナム出身の技能実習生は現在県内に約50名おり、彼らの相談や受け入れ先企業との調整に県内を走り回っています。

### ■ きっかけは『おしん』

ホックさんが日本に興味を持ったきっかけはNHK朝ドラの『おしん』。東北人の忍耐強さに感動したとのこと。また、日本企業のベトナム進出の増加もあり、日本語を学ぼうと思い、ハノイ大学へ進学。

大学で日本語を学び、卒業後はベトナムで通訳、翻訳、ガイドとして働いていた時、ベトナムの商社に勤める友人から現在の勤務先を勧められました。実はホックさん、ベトナムで開催されたふくしまフェスティバルinハノイ2013やふくしま・ベトナム友好協会のさくらの植樹のお手伝いをしたことも。福島県民の優しさに触れ、「この人たちと一緒に仕事ができると良いな、福島に住んでみたい」と思っていたので、「友人から紹介された時には、すぐ『行きます!』と言った(笑)。」



## 福島で働く技能実習生を支える

日々、技能実習生から相談を受けるホックさん。一番多い相談は日本語の勉強方法について。やはり最初は「言いたいことが言えない、言われていることがわからないから誤解されてしまうのでは?という不安が大きい」そうです。日本人と一緒に仕事をするためにどうすれば良いかー県内で働く技能実習生は18歳～34歳位。彼らは実習が終わる3年後、ベトナムの日本企業で働いたり起業する夢を持っている。ベトナムの将来を担う人材に対し、ホックさんは「ベトナム人は仕事の覚えは早い」と言います。ただ、若いゆえに、日本の安全管理やルールが細かいと感じることもあるそう。「ベトナムには、厳しくとか細かくという習慣がまだない。目的と理由を納得するまでに時間は必要。」

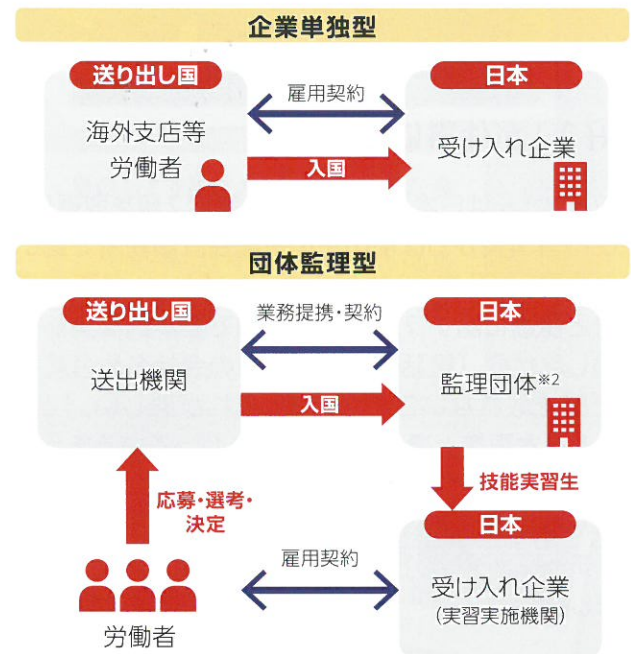
受け入れ会社を始め、ベトナム人の留学生や技能実習生に親切にしてくれる福島県民に感謝の気持ちでいっぱいだが、だからこそ、「言わないとわからないこともある。受け入れ会社の皆さんも、言いたいけど言ってしまうと大丈夫かと遠慮することもあると思うが、技能実習生も自分のやっていることが間違っているのかどうかわからないから、すぐ、はっきり言ってほしい。」とも言います。

## ベトナムと福島県の懸け橋に

震災後、ひとりひとりが我慢強く、一日でも早く復興できるように団結している福島県民の姿に感動しました。「どんどん福島が好きになっているから、ベトナムと福島県の懸け橋になりたい。」ベトナムは今、多くの若者が勉強している。自分だけではなく、家族にとっても良い将来を作るために。「日本は良い環境だから、観光でも留学でも日本に来たら絶対勉強になる。だから、いっぱい日本に来てほしい。特に福島に来てほしい。」

## ○ 技能実習制度とは

外国人を日本で一定期間(最長3年間※1)受け入れ、実際に職場で教育を受け、職業上の技能や知識を習得・習熟し、その国の経済発展を担う人材育成を目的としたもの。



※1 平成29年11月より最長5年間となります。

※2 福島国際交流事業協同組合(FKK)は監理団体です。



当協会主催事業GCカフェでベトナムを紹介するホックさん。  
ふくしまグローバルセミナー2017でも講座を担当します。